

健診で分かる肝臓がんのなりやすさ

—FIB-4 を用いた肝臓がん高危険者の拾い上げ事業—

日野病院 病院長 孝田 雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。



ウイルスだけじゃない？
肝臓がんの原因の変化

肝臓がんは、日本人のがん死亡原因の第5位です。これまでの町報でも何度か肝臓病についてお知らせしてきましたが、今回は昨年

から日野郡・西伯郡で行っている、肝臓がんになりやすい患者さんの拾い上げと定期検査についてお知らせします。

ウイルス性肝臓がんは年々減少しました。

ところが、最近ではウイルス以外の肝臓がんが増えています。最近3年間の鳥取県の肝臓がんの60%は、ウイルス以外が原因です。

高危険者を発見する

FIB-4 インデックス

では、このウイルス以外による肝臓がんの原因は何でしょうか。

それは、脂肪肝とアルコールが半分半分です。しかも、これらの患者さんはウイルス性肝臓病の患者さんとは異なり、日ごろ肝臓病として病院に通院していないため、肝臓がんが発見されたときには手遅れのことが多い、治療が困難です。

そこで、鳥取県肝臓がん対策専門委員会では、非ウイルス性の肝臓がんの高危険者を見つける方法として、FIB-4 インデックスを使用することにしました。これは、健診で測定される肝臓検査のASTとALTと、医療機関で測定する血小板から計算できます。

FIB-4 が 2.67 以

上の人は、2.67 以下の人より6倍から11倍、肝臓がんが発症しやすいことが分かっています。役場から健診（特定健康診査、後期高齢者健診）で生活習慣病のある患者さんは、FIB-4 を測定することを勧め、めする通知が来ますので、かかりつけ医の先生に通知をお渡しし、ぜひ受けてください。後日、FIB-4 の結果を役場から報告します。

FIB-4 が 2.67 以上であった高危険患者さんは、医療機関で精密検査（超音波検査、腫瘍マーカー）、また、年2回の定期検査を受けることが大切です。

高危険の人では、年に1%、つまり10年で10%、20年で20%の患者さんに肝臓がん



が発症します。FIB-4 値が高ければ高いほど発がんの頻度は増加します。

毎年の定期検査は特に重要です。定期検査は血液検査と超音波検査だけです。決して苦しい検査ではありません。日ごろかかりつけ医に診てもらっているも、腹部超音波検査をしないければ肝臓がんは見つかりません。必ず定期検査を受けるようにしてください。

肝臓がんは早期に発見することによって、10年、20年と長生きができる時代になりました。簡単な検査です。ぜひ一度FIB-4 の測定をお勧めします。

